



---

# Backup

---

クイックスタートガイド

バージョン R91

日本語

June 10, 2015

## **Agreement**

The purchase and use of all Software and Services is subject to the Agreement as defined in Kaseya's "Click-Accept" EULATOS as updated from time to time by Kaseya at <http://www.kaseya.com/legal.aspx>. If Customer does not agree with the Agreement, please do not install, use or purchase any Software and Services from Kaseya as continued use of the Software or Services indicates Customer's acceptance of the Agreement."

# 目次

バックアップ概略.....	1
Backup モジュールの要件.....	3
他のバックアップ製品のアンインストール.....	4
ボリュームバックアップ対フォルダバックアップ.....	4
パーティションのバックアップ.....	4
フルバックアップ、増分、差分バックアップ.....	5
バックアップの確認.....	5
非表示のプリファレンス.....	5
ダイナミックディスク.....	6
バックアップフォルダ構造.....	7
Kaseya Server のバックアップ.....	8
Kaseya Backup Local UI.....	8
Offsite Replication.....	9
合成フルバックアップ.....	11
インデックス.....	13



# バックアップ概略

## バックアップ

**Backup** (KBU) は、Windows サーバーおよびワークステーション用にリアルタイムの自動ディスクバックアップ、ディスクイメージング、ファイルレベルのバックアップ、およびベアメタルの復元リストアの機能を装備しています。

自動化、優れたパフォーマンス、使いやすさとセキュリティが、**Backup** の基本的な機能です。従来のファイルベースのバックアップ製品とは異なり、**Backup** はオペレーティングシステム、ユーザー設定、アプリケーションやデータなど、システム全体の状態のイメージを作成します。バックアッププロセスにはシステムのダウンタイムが必要ではないので、アプリケーションやサーバーはいつでも利用可能です。

バックアップが作成されると、**Offsite Replication** 『9 ページ』によって、即座にイメージおよびフォルダのバックアップが自動的に転送され、業務で使用されている場所から隔離して安全に保存されます。このプロセスは完全に自動化されており、担当者がテープなどのバックアップ用メディアを用意したり、保管の場所でホームやドックを覚えておく必要はありません。

**Backup** を使用すると、データを迅速かつ簡単に復元できます。数ファイルを復元するだけの単純なニーズから、クラッシュしたシステムの復元、または障害発生時のベアメタルからのシステム復旧を問わず、**Backup** は IT 管理サービスプロバイダーや IT ユーザーに、最も総合的で信頼性とコスト効率の高いサーバーおよびワークステーションの保護を提供します。

## 完全に自動化されたリアルタイムバックアップ

- ユーザーの介入は不要
- システムのダウンタイムは不要
- フルおよび増分のイメージをスケジュール
- フォルダおよびファイルのバックアップをスケジュール
- すべてのプロセスが自動化され、スケジュールされている時点で起動します。

## 完全なディスクイメージング

- セクターレベルのバックアップ
- 複数パーティション
- フルイメージと増分イメージがきめ細かい復元ポイントを提供し、オフサイトへのレプリケーションでのファイル転送のサイズを減少させます。
- すべてのプログラム、設定、構成、システムおよびユーザーデータの完全なデータ保護

## 完全に自動化されたオフサイトレプリケーション

- スケジュールされた時間期間
- ユーザーの介入なしで自動的に起動
- ダウンタイム不要
- テープなど輸送すべきメディアなし
- オフサイトサーバーでの合成バックアップ
- フォルダとファイルの合成暗号化バックアップをサポートします。

## バックアップ概略

### 高速で簡単なリカバリ

- リカバリの日付の細かい選択が可能
- ドライブボリュームをリモートでマウント可能
- 完全なシステムイメージの復元
- ドラッグ・アンド・ドロップでできるフォルダやファイルの復元
- ベアメタルイメージの復元
- ダウンタイムの最小化

### 柔軟な構成と制御

- グローバルな構成、グループ別の構成、OS タイプ別の構成、など。
- サーバー別またはワークステーション別の細かさ
- スケジュールされ、無人化可能なバックアップおよびファイル復元
- リモートおよび自動化された配置
- サーバーまたはワークステーションまたは顧客サイトを物理的に訪問する必要なし
- 追加のハードウェアまたはソフトウェアは不要

注：「システム要件」『<http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9010000/reqs/index.asp#home.htm> を見て』を参照してください。

機能	説明
バックアップステータス	任意のマシンのスケジュールされたバックアップのステータスを表示します。
スケジュールのボリューム	管理されるマシンで選択したハードディスクボリュームのバックアップをスケジュールします。
事前/事後手順	ボリュームバックアップの前および/または後で実行する手順を指定します。
スケジュールのフォルダ	個別のフォルダのバックアップをスケジュールします。
バックアップセット	ボリュームおよびフォルダの両方に対して、保存している現在のバックアップセットのリストを表示します。
バックアップログ	すべてのバックアップアクションによって生成されたログを表示します。
ボリュームの検索	管理されるマシンにバックアップを新しいドライブ文字でマウントします。
フォルダの検索	管理されるマシンにフォルダのバックアップをコピーします。
イメージの確認	任意のボリュームまたはフォルダのバックアップイメージを確認します。
イメージから VM	既存のバックアップファイルを次の3種類の仮想マシンファイルフォーマットのどれかに変換します：仮想 PC、VMware および ESX
自動リカバリ	選択したマシンに自動的に復元するボリュームのバックアップイメージを選択します。マシンがブート可能であり、エージェントがサーバーと通信できることが必要です。

CD リカバリ	管理されるマシンを CD からブートし、選択したボリュームのバックアップイメージを自動的に復元します。
Universal Restore	ブート CD を作成し、ウィザードを進めて手動でバックアップイメージを復元するための指示を提供します。
Offsite サーバー	オフサイトサーバーとして機能し、ローカルサーバーからファイルを受信するマシンを指定します。
ローカルサーバー	ローカルサーバーとして機能し、他のサーバーへファイルを送信するマシンを指定します。
Offsite 警報	ローカルサーバーがオフサイトサーバーへの接続に失敗したときに警報を生成します。
転送をスケジュールする	それぞれのサーバーの日単位のスケジュールを設定し、ファイルをオフサイトサーバーへ送ります。
インストール/削除	管理されるマシンのバックアップドライブおよびソフトウェアをインストールおよびアンインストールします。
イメージの場所	バックアップ保管場所へのパスを設定します。
イメージのパスワード	バックアップイメージを保護し、イメージの暗号化を有効にするパスワードをリストアップします。
フォルダバックアップ	フォルダのスケジュール中にバックアップするフォルダのリストを指定します。
バックアップ警報	バックアップイベントに関する警報を有効化/非有効化します。
圧縮	ボリュームおよびフォルダのバックアップで使用する圧縮を設定します。
最大ファイルサイズ	バックアップイメージに使用する最大のファイルサイズを設定します。この最大サイズより大きいイメージは複数のファイルに分割されます。
最大ログエージ	バックアップログデータを保存する最大日数を設定します。
安全なゾーン	保護ゾーンをインストールして、自動リカバリをサポートします。

## Backup モジュールの要件

### Kaseya Server

- Backup R91 モジュールを使用するには、VSA R91 が必須です。

### 管理される各マシンの要件

- 512 MB の RAM
- 2.3 GB の空きディスクスペース
- Microsoft Windows Server 2003、2003 R2、2008、2008 R2、2012、2012 R2
- Microsoft Windows XP SP3、Vista、7、8、8.1

注：概要の「システム要件」『

<http://help.kaseya.com/WebHelp/EN/VSA/9010000/reqs/index.asp#home.htm> を見て』を参照してください。

## 他のバックアップ製品のアンインストール

管理マシンに他のバックアップ製品がインストールされている場合、**Backup** で問題が発生する可能性があります。**Backup** を使用してボリュームやフォルダをバックアップする前に、他のバックアップ製品をアンインストールします。他のバックアップ製品がインストールされていると、バックアップステータスページに警告メッセージが表示されます。

## ボリュームバックアップ対フォルダバックアップ

スケジュールフォルダを使用してバックアップを実行すると、フォルダツリーとともに、データだけが圧縮されて、保存されます。

ディスクとパーティションのバックアップは、異なる方法で実行されます：**スケジュール容量**は、ディスクのセクター単位でのスナップショットを保存し、ユーザーには表示されないシステム領域を含めて、オペレーティングシステム、レジストリー、ソフトウェアアプリケーションおよびデータファイルが含まれます。この手順は**ディスクイメージの作成**と呼ばれ、結果として得られるバックアップアーカイブはしばしば**ディスクパーティションイメージ**と呼ばれます。

ハードディスクのデータを持っている部分だけが保存されます。さらに、スワップファイルの情報はバックアップされません。これによってイメージのサイズを縮小し、イメージの作成や復元のスピードが向上します。

## パーティションのバックアップ

個別のドライブ文字(パーティション)毎に、またはディスクドライブ全体をバックアップできます。

パーティションイメージには、属性によらないすべてのファイルやフォルダ(非表示およびシステムファイルを含む)、ブートレコード、FAT(ファイル・アロケーション・テーブル)、マスターブートレコード(MBR)があるハードディスクのルートおよびゼロトラックが含まれます。

ディスクイメージには、マスターブートレコード(MBR)があるゼロトラックと同様にすべてのディスクパーティションのイメージが含まれます。**完全なディスク不良からリカバリ**できるためには、ディスクドライブ全体をバックアップする必要があります。PCシステムのベンダーがインストールした**非表示のリカバリパーティションをキャプチャ**するには、ディスク全体をバックアップするしかありません。

注：一度に復元できるディスク/パーティションは1つのみです。

---

# フルバックアップ、増分、差分バックアップ

フルバックアップは、増分バックアップや差分バックアップに比べて完了するまでに時間がかかります。時間とディスクスペースを節約するために、フルバックアップをスケジュールして、増分バックアップや差分バックアップより頻度を少なくします。通常は、増分バックアップや差分バックアップは毎日実行するのに対して、フルバックアップは1週間または1か月に一度スケジュールします。すべての増分または差分バックアップを含むフルバックアップに必要な全ファイルは、バックアップセット内にも保存されます。希望するだけのセット数のフルバックアップを保存できます。

---

## バックアップの確認

確認スポットは、バックアップが完了し、正常に復元元として使用できることをチェックします。確認には、バックアップと元のソースファイルの比較は含まれないので、マシンにイメージの場所への読み取りアクセス権がある限り、エージェントがある他のマシンを使用してバックアップファイルを確認できます。バックアップイメージファイルが正常にイメージの場所のパスにコピーされていないければ、正常なバックアップが失敗することがあります。通常は、この問題はネットワークが遅いか、不安定な場合に発生します。遅いネットワークでは、バックアップを確認する際にスケジュール容量およびスケジュールフォルダの**バックアップの確認** オプションの選択を検討してください。

---

## 非表示のプリファレンス

[ボリュームのスケジュール]または[フォルダのスケジュール]のヘッダーパネルで、Alt キーを押して合成フルバックアップ  アイコンをクリックすると、各マシンに個別に適用可能なプリファレンスのタブが5つ表示されます。

### [合成フル]タブ

- **合成フルバックアップを実行する場合 - 合成フルバックアップ** 『11 ページ』が KBU の管理マシンで使用されており、かつイメージの場所またはオフサイトサーバーのローカルディレクトリが \\server\share のような UNC パスである場合、[ネットワークへ直接アクセスする]ではなく、[まずファイルをローカルにコピーする]が有効になります。この堅固な統合のオプションを効率的に使用するには、管理されるマシンに適切なハードディスクスペースが必要です。詳細については、Kaseya の **ナレッジベース** 『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/35940987> を見て』を参照してください。
- **成功するまで合成フルバックアップを<N>回実行** - 合成フルバックアップについて[合成フルの**試行**]の回数を設定します。
- **再試行予定 (<N>日後)** - **再試行予定 (日後)** の日数を設定します。

## ダイナミックディスク

### [インストーラ]タブ

- **同時ダウンロードの最大数** - 同時ダウンロードの最大件数を設定します。

### [オフサイトレプリケーション]タブ

- **オフサイトデータの整合性チェックに使用する検証方法** - オフサイトデータの整合性をチェックするための検証方法を選択します。
  - Quickest File Verification using File Size and Last Modified Time
  - Quick File Verification with SHA-1 Hash for Partial Files only
  - File Verification with SHA-1 Hash for Partial Files and Complete Files

### [診断]タブ

- **選択したマシンで AcronisInfo を実行する** - 選択したマシンで *AcronisInfo* を実行します。  
*AcronisInfo* は、ユーザー権限の割り当てリスト、Windows イベントログ、Msinfo32、Acronis のレジストリキー、Acronis のログ、Acronis スケジュールレポート、Acronis ディスクレポート、およびユーザーの Active Directory グループを自動的に収集するユーティリティです。この情報は、*AcronisInfo.zip* ファイルに入れられます。その後、*AcronisInfo.zip* ファイルは、選択したマシンの[**AcronisInfo のリンク**]列に表示されるリンクからダウンロードできるようになります。

**注:** *AcronisInfo.zip* ファイルを作成すると、ユーザーのデスクトップに進捗バーと他のプログラムが即座に表示されます。このプロセスを実行する前に、ユーザーの承認を得ることが推奨されます。

### [バックアップオプション]タブ

- **複数ボリュームのスナップショットオプションを使用する** - このオプションは、ボリュームバックアップ用の VSS があるマシン、および[ボリュームのスケジュール]ページにのみ該当します。チェックした場合、バックアップ中のすべてのボリュームのスナップショットが同時に作成されます。このオプションを使用して、データベースファイルなど、複数のボリュームに分散するデータについて、時間的に整合性のあるバックアップを作成します。チェックしない場合、ボリュームのスナップショットは順番に取得されます。複数ボリュームに分散するデータのバックアップが一貫しないことがあります。

---

# ダイナミックディスク

ダイナミックストレージには、物理的ディスクの複数ボリュームへの分割、または物理的ディスクと他の物理的ディスクと連結してどの物理的ディスクより大きなサイズのボリュームを構成することが含まれます。従来型のディスクボリュームは、「基本」ディスクボリュームと呼ばれます。

**Backup** は、次に示す基本およびダイナミックのバックアップと復元をサポートしています。

- 基本ディスクのバックアップ
- ダイナミックディスクのバックアップ
- 基本ボリュームの基本ディスクへの復元
- 基本ボリュームのダイナミックディスクへの復元
- ダイナミックボリュームの基本ディスクへの復元
- ダイナミックボリュームのダイナミックディスクへの復元

**注：Universal Restore** はダイナミックディスクの類似のハードウェアへの復元をサポートしていますが、新しいドライバーを必要とする別のハードウェアプラットフォームへのダイナミックディスクの復元はサポートしていません。別のハードウェアプラットフォームへ復元するには、ダイナミックディスクのバックアップを基本ディスクに復元する必要があります。

## ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップ

バックアップクライアントの ABR10 および ABR11 は、ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップをサポートしています。ABR10 より前のバージョンでは、これらのディスクタイプについて **パーティションベースのバックアップ** 『4 ページ』のみがサポートされていました。ダイナミックディスクおよび GPT ディスクのディスクベースのバックアップを復元するには、Universal Restore が必要です。ダイナミックディスクおよび GPT ディスクの自動リカバリと CD リカバリはサポートされていません。ABR11 は、Windows が GPT ボリューム（パーティション形式が GPT）にインストールされた EFI ベースシステムもサポートします。

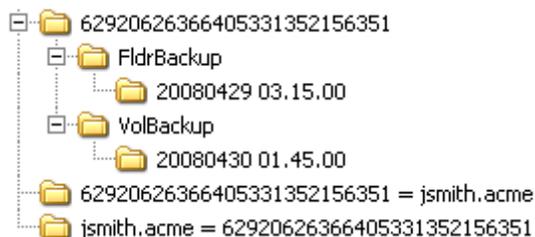
**注：ABR11** より前の Backup クライアントは、EFI ベースのシステムをサポートしていません。GPT ボリュームに Windows がインストールされている場合、バックアップと復元に ABR11 を使用したときのみ、復元システムがブートします。詳細については、Acronis の KB 項目『<http://kb.acronis.com/content/5684> を見て』を参照してください。

# バックアップフォルダ構造

ボリュームおよびフォルダのバックアップでは、個別のイメージの場所のパスを指定します。ボリュームバックアップおよびフォルダバックアップは、フルバックアップのステップで保存されます。それぞれのバックアップセットにはそれ自体のフォルダがあります。バックアップファイルの拡張子は、\*.tib です。

バックアップフォルダは、それぞれのマシン ID を一意に特定する GUID を使用して整理されます。マシン ID の代わりに GUID を使用して、マシン ID の名前を変更したり、マシン ID を別のグループに指定しても、バックアップができなくなることはありません。

同じバックアップイメージの場所のフォルダにある 2 つの追加で空のフォルダによって、それぞれの GUID に関連するマシン ID が特定されます。たとえば、jsmith.acme という名前のマシン ID があり、その GUID が 62920626366405331352156351 である場合、フォルダはイメージ場所フォルダで次のように編成されます。



最初のフォルダにはバックアップがあります。二番目の空のフォルダは、GUID に対するマシン ID を特定します。三番目の空のフォルダは、マシン ID に対する GUID を特定します。多数のマシン ID に対するバックアップがすべて同じイメージ場所のフォルダにあるなら、2 つの空のクロス参照フォルダのどちらかを使用して、マシン ID または GUID のどちらかによって、適切な GUID バックアップフォルダを特定できます。

# Kaseya Server のバックアップ

VSS が有効の場合でも、Kaseya Server の実行中には、**Backup** を使用して Kaseya Server をバックアップしないでください。その操作により、バックアップ中のデータベースにバックアップに関する情報を VSA が書き込むときに問題が発生します。Kaseya Server のデータは、データベースのメンテナンスサイクルが実行されるたびに自動的にバックアップされます。データベースのメンテナンスサイクルの頻度を設定するには、[システム] > [サーバー管理] > **[構成]** 『

<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#248.htm> を見て』の**[データベースバックアップ/メンテナンスを<N>日ごとに<時刻>に実行]**オプションを使用します。スケジュールフォルダを使用して、Kaseya のデータベースバックアップファイルを含むフォルダをバックアップできます。

**Backup** の Kaseya 関連ファイルのバックアップを使用するときには最大の柔軟性と復元性が得られるように、サーバーで実行する他のバックアップに加えて、Kaseya Server の次のフォルダをバックアップする**フォルダバックアップ**を構成することが推奨されます。

```
C:\<KaseyaInstallDirectory>\UserProfiles
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\ManagedFiles
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\banner\default\images\new
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\compact\default\images\new
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\themes\default\images\new
C:\<KaseyaInstallDirectory>\WebPages\Access
```

**[フォルダのスケジュール]**のスケジュールが、[システム] > [システム管理] > **[構成]** ページで設定した Kaseya のデータベースのバックアップと重ならず Kaseya Server のバックアップフォルダに構成したフォルダが**フォルダバックアップ**のフォルダに含まれていることを確認します。

バックアップ結果を更新するために Kaseya が SQL データベースへの書き込みアクセスを必要とするので、Kaseya Server の **Backup** バックアップの実行中には SQL サービスまたは Kaseya Server のサービスを停止しないでください。

注：「**Kaseya** サーバーのセットアップ」 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/install/index.asp#home.htm> を見て』を参照してください。

## Kaseya Backup Local UI

**Kaseya Backup Local UI** は、バックアップクライアントがインストールされた各エンドポイントのバックグラウンドで動作します。このバージョンでは次の操作が可能です。

- フォルダおよびボリュームのバックアップを検証する。
- 復元するボリュームバックアップをマウントする。
- フォルダバックアップからすべてのファイルを復元する。
- ボリュームバックアップを仮想ハードディスクに変換する。

**Kaseya Backup Local UI** は通常、次の場所にあります。

- 32 ビットマシンの場合: c:\Program Files\Kaseya\<VSA\_ID>\Backup\KaseyaBackupLocalUI.exe
- 64 ビットマシンの場合: c:\Program Files (x86)\Kaseya\<VSA\_ID>\Backup\KaseyaBackupLocalUI.exe

<VSA\_ID>は、お使いの VSA に関連する一意の識別子です。また、このパスのショートカットが

Acronis フォルダにもあります。

## Offsite Replication

オフサイトレプリケーションは、LAN からリモートの場所にバックアップイメージを安全かつ確実に転送します。オフサイトレプリケーションは、ローカルサーバーディレクトリ内にあるファイルやサブディレクトリに対するすべての変更を、指定したオフサイトサーバーディレクトリに転送します。

- ファイル転送は スケジュール転送を使ってスケジュールします。
- イメージの場所のディレクトリは、これらの転送に含まれるローカルサーバーディレクトリのサブディレクトリとして定義しなければなりません。
- [オフサイト警報]ページでは、指定したローカルサーバーがそのオフサイトサーバーに接続できない場合に警報を作成します。
- オフサイトレプリケーションは、**合成フルバックアップ** 『11 ページ』の使用をサポートします。

### オフサイトサーバーの構成

マシン ID はオフサイトサーバーとして機能できます。オフサイトサーバーは希望するだけ多数持てます。オフサイトサーバーの構成例は以下のとおりです：

- **1つのグローバルオフサイトサーバー** - それぞれの管理される LAN がグローバルオフサイトサーバーにデータを送るローカルサーバー。
- **複数のオフサイトサーバー** - 複数のローカルサーバーがそれぞれのオフサイトサーバーに指定されます。複数のオフサイトサーバーは負荷をバランスするために使用します。
- **クロスオフサイトサーバー** - 複数の場所がある会社のオフサイトレプリケーションをサポートします。たとえば、2か所の会社サイトが、互いに他方の会社サイトにとってのオフサイトサーバーの場所として機能します。

### ローカルサーバー

[ローカルサーバー]ページでは、すべての新しいファイルをオフサイトサーバーに転送するために使用するローカル LAN 上のマシン ID およびディレクトリを定義します。オフサイトレプリケーションは、ローカルサーバーのディレクトリのファイルやサブディレクトリへのすべての変更を指定したオフサイトサーバーのディレクトリに転送します。ファイル転送は スケジュール転送を使ってスケジュールします。イメージの場所のディレクトリは、これらの転送に含まれる**ローカルサーバー** ディレクトリのサブディレクトリとして定義しなければなりません。

それぞれのローカルサーバーに対して、以下を指定します：

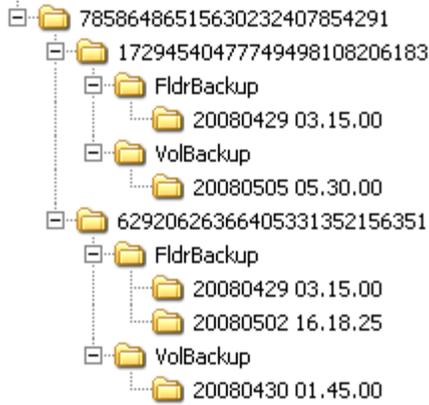
- ファイルを送るオフサイトサーバー。
- オフサイトサーバーへの送信を行うローカルディレクトリのパス。
- オプションの帯域制限です。

ローカルサーバーのディレクトリは、ネットワークファイルの共有のディレクトリをポイントしている UNC パスになります。マッピングドライブを使用してローカルサーバーのディレクトリを指定しないでください。ローカルサーバーには、ネットワークにアクセスできるように設定した**証明書** 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#352.htm> を見て』が必要です。

**注：**オフサイトレプリケーションは、**Kaseya Backup** を使用して作成されたバックアップセットのレプリケーション専用設計されています。他のファイルタイプまたはフォルダのレプリケーションは、サポートされていません。

### オフサイトフォルダ構造

オフサイトサーバーは、指定したディレクトリにローカルサーバーから受信したデータを保存します。トップレベル GUID フォルダは、データが来たローカルサーバーの GUID です。セカンドレベル GUID フォルダは、バックアップするマシン ID の GUID です。以下の図は、一般的なオフサイトサーバーのディレクトリ構造を示しています。



### ファイル転送

ファイルの変更だけがオフサイトサーバーに送信されます。失敗したファイル転送は、失敗した時点から自動的に再起動されます。ファイル転送を最初から再起動する必要はありません。オフサイトのレプリケーションは、エージェント/サーバーの通信と同じ通信技術を使用します。すべてのトラフィックは、256-ビット暗号化されます。

### ローカルサーバーとオフサイトサーバーに同じマシンを使用する

オフサイトサーバーをローカルサーバーと同じマシンに指定する場合がありますが、以下に注意してください：

- ドライブに渡ってレプリケーションするために単にポートを開くだけですが、他のレプリケーションツールはローカルで行います。
- ファイルはオフサイトではコピーされません。オフサイトのバックアップによる障害復旧の利点が失われます。

### 名前/IP アドレスとポートの設定

オフサイトサーバーとして機能するエージェントがあるターゲットマシンを選択します。オフサイトサーバーは常に動作し、指定した TCP ポートを使用してローカルサーバーからの接続をリスンします。ポートは、他のアプリケーションでは使用できません。エージェントのチェックインポートと同様に、9721 の使用を試してください。オフサイトサーバーのポートは、1024~49151 に制限されます。

**注：**バックアップクライアント v10.x 以降を使用している場合、ポート 9876 または 9877 は使用しないでください。これらのポートは、Acronis Backup & Recovery コンポーネントが使用しており、オフサイトレプリケーションサービスと競合します。

ローカルサーバーから解決できる DNS 名または IP アドレスを指定しなければなりません。通常は、これは外部の名前/ゲートウェイの IP アドレス/ファイアウォール/ターゲットマシンが使用するルーターです。**ポートの範囲**のゲートウェイ/ファイアウォール/ポート 9721—またはそれ以外の選んだポート番号にリクエストを送るルーターでの転送を—オフサイトサーバーとして機能するマシン ID の内部 IP アドレスに設定します。

**注：**オフサイトサーバーは、ネットワークディレクトリにアクセスしてデータ転送を受信するために、**資格情報** 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#352.htm> を見て 』セットが必要です。

## オフサイトの構成のテスト

オフサイトサーバーを構成したら、オフサイトサーバーのマシンのペンディング手順をチェックします。

1. ●または②または③のアイコンをクリックします。
2. **[Live Connect]** 『<http://help.kaseya.com/webhelp/JA/VSA/9010000/index.asp#4796.htm> を見て 』 > [エージェントデータ] > [保留中の手順] タブをクリックします。
3. **Start Offsite Server** 手順が正常に実行されたことを確認します。

Telnet を使用して、オフサイトサーバーのコンポーネントへの接続を試みます。次のコマンドの文字列 `your.offsiteServer.com` を名前/IP アドレスに置換します。9721 を、使用しているポート番号に置換します。

```
telnet your.offsiteServer.com 9721
```

接続が成功すると、点滅するカーソルが表示されるはずですが、オフサイトサーバーの準備が完了していることを確認した後、ローカルサーバーを構成できます。

# 合成フルバックアップ

合成フルバックアップは、既存の増分または差分バックアップと以前のフルバックアップのイメージを統合して作成します。これは、時には「永久増分バックアップ」と呼ばれます。従来型のフルバックアップとは違って、合成フルバックアップはローカルサーバーからオフサイトサーバーへ転送されません。代わりに、**最初のフルバックアップ**が転送された後は、増分または差分のファイルだけがオフサイトサーバーへ転送されます。オフサイトサーバーの合成フルバックアップは、ローカルサーバーと並行して次の合成フルバックアップを再作成します。これによって、ローカルサーバーとオフサイトサーバーの間でフルバックアップを転送する必要がなくなります。合成フルバックアップでは、フルバックアップの転送のための帯域要件は不要ですが、オフサイトサーバーによる自身のファイルサーバーへのアクセスを強化して合成フルバックアップの処理を取り扱う必要があります。

合成フルバックアップが KBU 管理マシンで使用されており、かつイメージの場所またはオフサイトサーバーのローカルディレクトリが、`\\server\share` などの UNC パスである場合、**[ネットワークへ直接アクセスする]**ではなく、デフォルトで**[まずファイルをローカルにコピーする]**が有効になります。この堅牢な統合オプションを効率的に使用するには、管理マシンに適切なハードディスクスペースが必要です。詳細は、Kaseya の**ナレッジベース** 『<https://helpdesk.kaseya.com/entries/33899557> を見て 』を参照してください。

**注：** **Offsite Replication** 『9 ページ 』を参照してください。

合成フルバックアップの構成には以下のステップがあります：

**以下の最初の3つのステップは、すべてのオフサイトサーバーに適用されます。**

1. ローカルサーバーにエージェントをインストールします。通常は、バックアップしているマシン ID のバックアップイメージの場所はローカルサーバーを指しています。

**注：** バックアップクライアントをローカルサーバーまたはオフサイトサーバーにインストールする必要はありません。

## 合成フルバックアップ

2. オフサイトサーバーにエージェントをインストールします。
3. [バックアップ]>[オフサイトサーバー]を使用して、マシン ID をオフサイトサーバーとして定義します。  
**これらのステップは、合成フルバックアップを使用するオフサイトサーバーに適用されます。**
4. [バックアップ]>[オフサイトサーバー]ページで、合成のサポートをスケジュールするマシン ID の[インストールをスケジュールする]ハイパーリンクをクリックします。ダイアログボックスが表示されます。合成サポートコンポーネントのオフサイトサーバーへのインストールをスケジュールします。
5. [バックアップ]>[ボリュームのスケジュール]または[フォルダのスケジュール]を使用してマシン ID のバックアップを作成する場合は、必ず[合成フル]チェックボックスをチェックしてください。これらは、バックアップを上で定義したオフサイトサーバーへ転送するローカルサーバーにバックアップを保存するマシン ID です。
6. [バックアップステータス]ページを使用して、スケジュールした合成バックアップの進捗状況を確認します。このページの[オフサイトサーバーのステータス]および[ローカルサーバーのステータス]のセクションに、[合成バックアップがキューに登録済み]列が表示されます。この列には、合成バックアップがスケジュールされた各マシン ID の台数が表示されます。リンクをクリックすると、個々の合成フルバックアップのキューステータスを表示するウィンドウが表示されます。

---

# インデックス

## B

Backup モジュールの要件 - 3

## K

Kaseya Backup Local UI - 8

Kaseya Server のバックアップ - 8

## O

Offsite Replication - 9

## た

ダイナミックディスク - 6

## は

パーティションのバックアップ - 4

バックアップの確認 - 5

バックアップフォルダ構造 - 7

バックアップ概略 - 1

フルバックアップ、増分、差分バックアップ - 5

ボリュームバックアップ対フォルダバックアップ - 4

## 漢字

合成フルバックアップ - 11

他のバックアップ製品のアンインストール - 4

非表示のプリファレンス - 5